

**講義「東京湾の海の恵み」**

(講師：林 上席研究員)

東京湾には川から多くの栄養が流れこみ、プランクトンが増えて透明度が悪くなったり、赤潮が発生したりしています。また、このプランクトンが死んで分解する時に、酸素をたくさん使ってしまう青潮が発生するなど、昔に比べて水の環境が悪くなっています。

しかし、現在でも多くの生きものが生息し、魚や貝を対象とした様々な漁業やノリの養殖が行われており、水産物として海の恵みを受けています。

さらに、東京湾に生息する生きものたちは、栄養を吸収したりプランクトンを食べたりすることにより、水をきれいにするのに大きな役割を果たしています。

**実験「東京湾を救う貝の浄化能力」**

(講師：小林 上席研究員)

アサリの一生を学ぼう

砂潜りを観察しよう

貝が海水をきれいにする能力を見てみよう

プランクトンを見てみよう

**実験「ノリの種の不思議」**

(講師：島田 研究員)

ノリの生活史(一生)を学ぼう

採苗(種付け)をやってみよう

ノリ葉状体の細胞を観察しよう

ノリ葉状体を触ってみよう

**講義「種苗生産の現場を見てみよう！」** (講師：庄司 富津生産開発室長)

見学(種苗生産研究所内 飼育施設)

私たちが、これからも「海の恵み」を受けられるよう、千葉県では「つくり・育てて、獲る漁業」を推進しています。

水の中の生物や環境などを研究している「水産総合研究センター」には、今日みなさんがいる種苗(魚のこども)生産研究所「富津生産開発室」と、勝浦に「勝浦生産開発室」の二つの研究室があり、富津ではヒラメ(約3cm, 135万尾)、マコガレイ(約4cm, 46万尾)を、勝浦ではマダイ(約3cm, 135万尾)、アユ(約6cm, 70万尾)の種苗を生産し放流しています。

生産された種苗は、ヒラメやマダイのように漁業者の方々などにより、さらに大きく育ててから海に放流している魚もあります。